

美学美術史学科活動報告

岩 尾 秀 樹

本学における美学美術史学科の特色として、理論専攻という、本来の学問的研究と深く交流しながら、中広い認識と理解、判断力の中で、美術表現に個性の開拓を目指す、実技コースが三年次より設けられている。

新設途上に見られる、さまざまな志向を阻害するハンディを克服しながら、むしろ学生のもつ若々しいエネルギーと、科独自のアンチームな同志的意識に支えられて、ようやく第二回卒業生を送り出す季節を迎えている。

一九七六年十二月、大分市トキハにおける第一回美学美術史学科制作発表展（創立三十周年記念別府大学美術展）をスタートにして、七七年第二回展を新設の大分県立芸術会館を会場として開催。これらの発表展は卒業制作を中心として、実技コース学生全員参加を原則に、毎年催す行事として定着したい。

その他学生の自発的グループ展や、公募展への応募出品、または個展など、次第に多彩な発表活動も旺盛になりつつある。これらの動向は、美学美術史学科の展望、精力的な造形意欲に満ちた学風をきり拓く、大切な意義を内包するものであり、軽々に発表を怠ぐ不用意さを自戒しながら、実技コースの力量を学生とともに築き上げたいと念願する。

本科発足以来の発表展記録は、「美学美術史学科展覧会報 第一号」（一九七七年二月発行）および「第二号」（一九七八年二月発行）に掲載されており、一部重複するが、改めてここに記録する。

● 十六ミリ映更「窓」シナリオ 滝口道弘 一九七五／十一月一七六／三

● 「篠田正浩の史的テーマの展開」入選発表 滝口道弘 キネマ旬報一九七五／一〇月号。

● 東江真弓 田嶋弘子二人展 各油彩十五点発表 一九七六／二大分晃星堂

● 第五〇回国展発表 「風の日」[F100 岩尾秀樹 (VISION 七月号掲載) 一九七六／四 都美術館

● 「大分の民話 第二集」 未来社刊（日本の民話五九） 岩尾秀樹装画執筆 一九七六／五

● 神力恵子個展 「コスチューム」等油彩二〇点発表 一九七六／六 晃星堂

● 岩尾秀樹近作小品展 「鳥と人」をテーマに油彩三〇点発表 一九七六／七 番号館

● 十六ミリ映画「共會のマテイエル」シナリオ 衛藤憲・滝口道弘 一九七六／十一月七／二

● 第十九回別府市美展入賞 江野川カオル・後藤正行・横枕義郎・我如古盛範 一九七六／十一 市観光会館

● 岩尾秀樹素描展 「裸婦」「鳥」をテーマにペン・木炭・パス

テル作品二〇点発表 一九七六/十二 えだ画廊

●創立三十周年記念別府大学美術展 学生作品一四〇点出陳

一九七六/十二 トキハ カトレアの問

●緑紅会第一回展 後藤正行・外園悦子・福湯幸一・渡部庸・矢野雅彦・後藤祐子・佐藤順子 油彩出品 一九七七/一 晃星堂

●アドバンス大分美術批評 岩尾秀樹 前年に引続き連載執筆

●第五一回国展発表 「飛蝗」F.100 岩尾秀樹 「貝の詩」

F.100 榎垣正喜 国画新人賞一九七七/四

●春季県美展 「祭り」F.80 服部敏彦奨励賞 一九七七/五 大分文化会館

●アドバンス大分映画批評執筆 滝口道弘 一九七七/十一以降 連載

●第二〇回別府市美展受賞 松本徹也・服部敏彦・忽那佳夫

●第一回九州青年美術展入選 森康史「森閑立女」 後藤正行「楽器」F.50 榎垣正喜「未明」 一九七七/十一 大牟田松屋

●第二二回蒼土展発表 「影」F.30 「砂浜」F.100 榎垣正喜 一九七七/一〇 ニチイ

●秋季県美展入選 住野秀志「朝」日本画 有村一也「暮近く」 秋吉徳和「風景」 服部敏彦「祭り」 井上豊「ムサーとアギ」と私」 足利桂子「詩情」 豊増良雄「大都会」 後藤祐子「秋の黄昏」 後藤正行「三角錐による構成」 横枕義郎「夜の人形」 以上油彩 田嶋弘子「魚服記」中津市長賞受賞

一九七七/十一 県立芸術会館

●榎垣正喜第三回個展 「夜」F.130 「空」F.130 等油彩十二

点発表 一九七七/十一 大分トスコ

●第二回別府大学美術展 学生作品油彩・素描・彫塑・デザイン

作品二〇〇点出陳 一九七七/十二 県立芸術会館

●緑紅会第二回展 後藤正行・福湯幸一・渡部庸・矢野雅彦・後藤祐子・佐藤順子・服部敏彦・今村弥生・橋本理恵 一九七八/一 晃星堂

●大分精銳作家展 「鳥と人」「二羽の鳥」 岩尾秀樹 「少年と鳥」 榎垣正喜 一九七八/二 日田 画廊ムンク

昭和五十一年度卒業論文および卒業制作

田嶋弘子 「佐伯祐三論——作品に見る造形思考——」

東江真弓 「楽器静物」(F.100) 「自画像」(F.100) 「花

のある静物」(F.50)

田嶋弘子 「牛骨のある静物」(F.100) 「ふたり」(F.100)